

第3回住民自治推進懇話会資料

【11/7 第2回住民自治推進懇話会：ワークショップ】

今井先生の住民自治の説明、島田君の自治会等アンケート調査とりまとめを参考資料として、3班に分かれ、「身近な住民自治を考えようーあなたも実践している住民自治ー」をテーマにワークショップを開催しました。

<ワークショップ方法>

- ①自らや地域で実践している住民自治、住民活動や自治会活動、地域活動で課題となっていることを付箋に記入する。
- ②模造紙へ同類の意見ごとに区分し、標題間の関連や連携について図示する。
- ③問題、課題に対して、解決可能なことなのか、解決できないことの整理をし、解決できない場合は、行政の協力・事業者の協力など、どうしたら解決できるのか対応策を考える。

<ワークショップまとめ>

(1班)

(進行) 岩尾尚人、(発表者) 北洞良憲、古池孝文、中山紀子、小池弘、上村英二、石田紡

○文化活動（公民館活動）

- ・公民館活動の様々な行事
- ・子供だけの文化祭（11回目）
- ・文化協会員としてイベントに参加（会員の減少・高齢化）
- ・文化祭、ヨガ教室、花・着付け・ベル教室、花瓶づくり、
- ・公民館サークル：城下町夜ばなしの会（歴史講座）
- ・観光客への街中案内（10人→6人へ減少）

●課題整理

<地域にあった公民館活動を継続する>

- ・公民館行事への参加者が少ない？＝参加者の高齢化、仕事などが忙しく参加できない、外の行事があり参加できない、行事への興味がない、＝担い手がいない
- ・どうしたら参加者を増やすことができるのか。
- ・子供の内から公民活動に親しむ体制づくりを作る。

○環境整備（活動）

- ・河川清掃、道路の草刈、水路の清掃、公園・道路の清掃、公民館・宮の清掃、井普請→自治会により、出不足料がある。
- ・ゴミの分別をしている

●課題整理

<地域清掃や美化活動の継続する>

- ・地域清掃や美化活動は、83%の自治会で実施していることから、取り組みへの意識は高く課題にはならない。事業の継続が出来るような体制づくりが必要である。
- ・出不足料により、公平感が保たれている。
- ・出不足料は、自治会等の貴重な収入になっている。

○団体活動

- ・青年団（明宝のみ）
- ・消防団（団員の減少・高齢化）→消防団OBシステム化
- ・女性の会（八幡のみ）
- ・民間「さつきの会」
- ・地区運動会
- ・ママ友の集まり
- ・婚活＝栃尾里山倶楽部
- ・炊き出し（八幡）
- ・昨年自治会長

●課題整理

<地域防災力を高める>

- ・消防団の高齢化、団員の減少は、有事の際には深刻な問題である。地域内の昼間及び夜間における活動可能な団員数を把握し、既存消防団と連携した消防団OBの活用が必要である。消防車両の使用、消防団OBの保険加入等の検討を行う、

<女性の力を発揮する>

- ・女性の会は、八幡地域で唯一組織化されている。女性の会があると良いこと（役割）。無くなって困っていること。どうしたら復活できるのか。女性の会の活動しやすい構成組織は（活動しやすい年齢）。女性の会活動の範囲は（自治会内限定など）。

○子供関連の活動

- ・交通安全街頭指導
- ・小学生の登校見守り
- ・放課後児童クラブ
- ・子供とデイキャンプ

●課題整理

<自治会内、公民館内、学校区域内、地域内の防犯対策を強化する>

- ・関係する自治会、地区会、公民館、PTA、NPO法人、事業所、ボランティアなどの個人及び団体と連携し、交通安全街頭指導、小学生の登校見守りなどの地域住民等による防犯対策を強化する。

<放課後児童クラブを継続する>

- ・地域内の対象となる児童の保育を行う。

○高齢者関連の活動

- ・ 歩け歩け（ウォーキング）に独居老人を見る
- ・ 老人サロン
- ・ 敬老会（中止のところもある）

●課題整理

＜自治会内、公民館内、学校区域内、地域内における身近な福祉活動を推進する＞

- ・ 高齢者、独居老人等の見守り

○伝統文化活動

- ・ 祭りで獅子を教えている＝大人と子供の交流
 - ・ 祭り（大神楽、芝居、余興）への参加：子供が少ないため、舞子のなり手が不足、大人の不足
- 都会の女性が参加？
- ・ 葬式の手伝い
 - ・ 八幡ふるさとまつり実行委員会

●課題整理

＜地域で伝統文化を支える＞

- ・ 祭りは、地域内の大人と子供のコミュニケーション場であり、大事な伝統行事である。子供だけではなく大人の人手不足も深刻化している。

＜市民と協働による各地域ふるさとまつりを更に進める＞

○地域づくり

- ・ 公民館長の充て職で実行委員・役員をしている
- ・ 30歳までの人達で地域づくりを構成している
- ・ 自治会の中の一つの組で地域起こし活動＝栃尾里山倶楽部＝外から人を受け入れる
- ・ 回覧板を回す（当たり前か）
- ・ 高校へ子供を乗せていく

●課題整理

＜地域リーダーを育成する＞

- ・ 公民館長、自治会長の充て職による役員等が負担である。
- ・ 将来へ向けた地域リーダーの育成が必要である。

＜地域ぐるみで公共交通を支える＞

- ・ 保護者等の送迎による高校生の通学が多い。

○地域イベント

- ・ 音楽、コンサート、落語会の開催
- ・ 御伽
- ・ 伝統文化－移住者の相談

(2班)

(進行) 島田将行、(発表者) 金古のり子、石神隼、亀山浩文、鷺見和代、藤田重信、清水宗人

○優しくしましょう

- ・ 子供の見守り活動
- ・ 独居老人宅の見守り
- ・ 独居老人宅のエコプラザへのゴミ出し
- ・ 地域内の病人・高齢者の確認に努めている
- ・ 35軒の地区であるが高齢者の名前を全て知っている
- ・ 地域内であるが、老人宅を2日に1回訪問している
- ・ できる時は、病院へ送迎している
- ・ 高齢者の運転が危険なときがある
- ・ 若い年寄り(定年退職者)の活用方法
- ・ 廃品回収の手伝い
- ・ 防災訓練

◎対応策(どうしたらいいか)

- ・ 住みやすい地域を自分たちで創っていきこうという気持ちを共有する手立てがいるよ
 - ・ 新しいルールが必要
 - ・ 顔のわかりあう地域づくりが大切だ
 - ・ 良い事は、良い文化として残していきたい
- まめかな運動=例えば、子供を中心に活動してはどうか
→子供の下校時間にチャイム(音楽)を鳴らす
→音楽が聞こえたら、皆が屋外へ出て散歩する(和良地域)
→子供と一緒に登下校する(家にいる人、シニアの人、主婦の人等)
→屋号の復活で呼び合う

●課題整理

<住みやすい地域を自分たちで創っていく>

- ・ 子供の登下校を見守ることにより、自らもまめかな運動に参加する。
- ・ 高齢者・独居老人宅の見守り、エコプラザへのゴミ出し・病院への送迎等の支援により、自らも身近な福祉活動に参加する。
- ・ 廃品回収等の地域内のボランティア活動へ積極的に参加する。
- ・ 貴重な担い手として、若い年寄り(定年退職者)の活用を推進する。
- ・ 行事に参加しやすく、行事が実施しやすい新しいルールづくりが必要である。

○美しくしましょう

- ・ 毎月1回当番制で公民館の清掃を行っている
- ・ 公民館の清掃を毎月交替でやっている
- ・ 共同場の整備
- ・ 地域花壇の作業
- ・ 清掃活動(地域美化)
- ・ 桜並木の手入れ。今年は夫と水やりをした

- ・井普請を自治会行事として実施している
- ・井普請を実施している
- ・山の下刈り作業
- ・土木作業、草刈
- ・子供用水遊び場の整備
- ・月1回の川掃除に出ない家がある
- ・神社の灯明当番をしている
- ・お宮の掃除当番をやっている。係りがある。鐘が鳴ると集まってきて度々
- ・お宮の月1回掃除当番をやっている。
- ・各班交替でお宮、公民館の掃除をしている
- ・集会場の清掃している（女性）
- ・女性の会は無くなったが、敬老会や薪能とか女性が必要な仕事は分担してやっている
- ・作業に参加する人が限られている。参加しない人は全然しない
- ・毎月、地区定会を26日に実施している

◎対応策（どうしたらいいか）

→役割分担して奉仕作業を実施する（シニアクラブ、子ども会、女性の会、PTA）

→順番制で作業を実施する

●課題整理

<美しい地域を自分たちで創っていく>

- ・公民館・集会場等の公共施設、花壇、井・道普請、お宮の清掃・美化活動を継続する。
- ・作業に参加する人が限られている。参加しない人は全然しないことからルールが必要である。
- ・作業内容を団体（シニアクラブ、子ども会、女性の会、PTA）ごとに分担して奉仕作業を実施する

○楽しくしましょう

- ・毎日、いろんな情報をコーヒー店にて交換
- ・女性の頼母子がある。月1回、同世代が集まってワイワイ
- ・地区会単位で女性だけの忘年会が実施されている
- ・自治会対抗の運動会を実施している
- ・世帯数が少ないほどまとまりやすい
- ・行事に自主的に参加する人が少ないことが課題である

●課題整理

<楽しい地域を自分たちで創っていく>

- ・色んなことが気軽に話せる溜り場を整備してはどうか。
- ・何か目的がないと人が寄ってこないのではないか。（集まると得すること）
- ・溜り場で、楽しいことを考える。

○にぎやかにしましょう

- ・秋祭りに子供神楽を継続している
- ・神社のまつりを実施している

- ・祭礼行事の協力（子ども会、女性の会、自治会等）
- ・山の講（どんど焼き）について、子供が少なくなっていることが問題（美並）

●課題整理

<にぎやかな地域を自分たちで創っていく>

- ・地域の祭りを継続するためには、子ども会、女性の会、自治会等の協力が必要である。

（3班）

（進行）鈴木雅秀、（発表者）興善健太、小酒井勇、古橋鈴代、五味川真澄、有井弥生、置田晋央、佐藤円

○美化活動

- ・シニアクラブがお宮の掃除を実施している
- ・女性部が公民館を清掃（年2回）
- ・独居世帯の増加、高齢化により、清掃、美化活動へ参加が難しい
- ・美化活動を年2回実施している
- ・花壇の管理を女性部が実施している
- ・自治会、地区会活動（夏の懇親会、草刈）
- ・地区会総会（年3回）：年寄りばかり
- ・秋祭り：子供がいない
- ・地区内の清掃活動：花壇づくり
- ・区民による水路の掃除
- ・井普請と花見を兼ねて4月に実施している
- ・公民館活動（運動会、盆踊り大会、振興大会、もち花づくり、歩け歩け大会、登山、魚釣り大会）
- ・林道の草刈、水路の清掃

○課題

- ・少子化
- ・子供達の顔を知らない
- ・新しい活動は出てこない（役済まし）
- ・年一回の総会のみで終わり易い
- ・行事のマンネリ化、形式的
- ・ことなかれ
- ・世代を越えた繋がりが無い。特に女性同士
- ・隣と話すことが殆どない
- ・田舎の方が、都市部より以外とつながりがあるのでは？
- ・住民自治に対する役員・住民の意識が低い
- ・地区会内の班の世帯数に差がある
- ・高齢世帯の増加
- ・町内の若者の活躍意識がない
- ・葬式では各戸が参列する

●課題整理

<美化活動を継続する>

- ・自治会・地区会・シニアクラブ・女性部等が、お宮・公民館・花壇・水路清掃・林道の草刈等の美化活動を実施している
- ・独居世帯の増加、高齢化により、清掃、美化活動へ参加が難しくなっている。

<自治会行事の活性化が必要である>

- ・役員が忙しく、新しい活動は出てこない。出来ない現状にある。・行事のマンネリ化、形式的である。
- ・年一回の総会のみで終わっている。年寄りばかり集まっている。
- ・特に女性同士であるが、世代を越えた繋がりが無い。隣と話すことが殆どない。
- ・普段から日常的な付き合いや会話が無く、災害時などの活動低下・連携が懸念される。
- ・地区会内の班の世帯数に差があることが、自治会活動に影響するのか検討が必要である。
- ・自治会内の高齢世帯は増加していることから、自治会の支援対策の検討が必要である。
- ・自治会行事への若者の参加機会を生み出す必要がある。
- ・消防団と自治会の連携を強化すべきではないか。

◎子供がキーワードである。

◎公民館行事には、地域を越えて参加できる仕組みがあると良い・